

道庁前イチョウ並木 (札幌市)



札幌市



北海道内に現存する最も古い街路樹

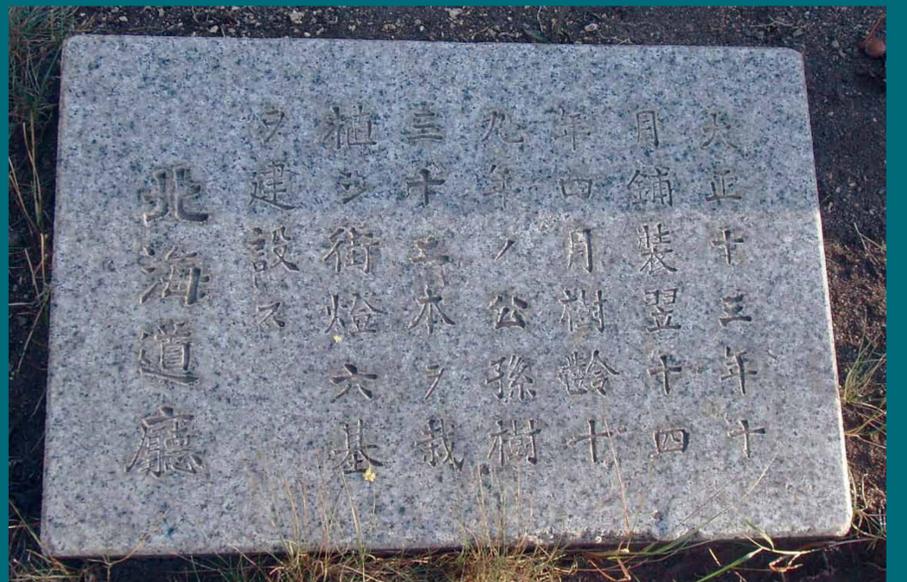
北海道庁赤れんが庁舎前にあるイチョウ並木は、1925（大正14）年に道庁初代勅任技師 名井九介博士の指導の下で、札幌初の木塊舗装の完成を記念して植栽された、道内に現存する最も古い街路樹である。当時の北海道では、イチョウは入手困難な貴重な樹種だったが、道庁前には19年生のイチョウが32本植栽された。道庁赤レンガ庁舎とともに札幌のシンボルで、樹齢百年を超えた今も28本が現存している。

現在、周辺の再開発に伴い、より一層市民に親しまれる空間に生まれ変わりつつある。

概要

名称	道庁前イチョウ並木
所在地	札幌市中央区北3条西4丁目
管理者	札幌市
規模	約90m、28本
種別等	並木・街路樹
整備年	1925（大正14）年

2011（平成23）年に土木学会より選奨土木遺産として認定



北西部に、由来の書かれた標石が埋められている



イチョウ並木の向こうに北海道庁赤れんが庁舎が見える